



道 第 2 1 7 号
平成 2 0 年 1 0 月 2 2 日

国土交通省道路局長 様

富山市長 森 雅 志



今後の道路行政についての意見・提案について（回答）

このことにつきまして、別紙のとおり回答します。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

富山県 富山市

1. 現在事業中の箇所については、確実な事業費確保と集中投資による事業効果の早期発現が不可欠。
2. 新規事業箇所については、絞り込みが必要だが、数値化した費用対効果のみで評価することなく、地域の実態を十分に反映することが必要。
3. まちづくり交付金のような地域の実情を反映できる制度の拡充。
4. 地方道路整備臨時交付金制度の維持・拡充。
5. 国の補助採択要件に捉われない地方の裁量による道路整備制度の創設。特に、橋梁の更新に対する助成制度の創設。
6. 一般財源化する場合でも、必要な道路の整備や維持・管理が確実にできる予算措置が必要。

○現状

1. 超高齢社会

本市の人口構成は、平成 30 年代には概ね総人口の 3 人に 1 人が 65 歳以上の高齢者になると予測

2. 環境保全

地球規模の環境問題に積極的に取り組んでおり、環境モデル都市に指定された。

3. 防災対策

急峻な山々や大小の河川、特別豪雪地帯、活断層などを有しているため、災害の発生が危惧されている。

4. 広域交通

東海北陸自動車道が全通するとともに、富山新港の整備や北陸新幹線の整備が進んでいる。

5. 個性ある地域の発展と一体性の確保

平成 17 年に 7 市町村が合併したところであり、地域の一体性の確保と一層の発展につなげる必要がある。

6. 中心市街地の活性化

まちの顔である中心市街地が疲弊している。

7. 身近な生活道路の遅れ

身近な生活道路の整備が遅れており、また、冬期間の交通確保に苦慮している。

8. 橋梁の老朽化

戦災復興で市街地を整備したため、更新が必要となる橋梁が急増することが確実。

○課題

- ・ 高齢者、障害者が地域の中で安心して暮らせるよう、公共施設等のバリアフリー化を推進
- ・ 鉄軌道やバスなどの公共交通の活性化を軸とした「歩いて暮らせるコンパクトなまちづくり」の推進
- ・ 渋滞緩和による二酸化炭素の排出量削減
- ・ 大規模災害時の救急活動や緊急物資の輸送に活用する幹線道路の整備
- ・ 空港、港湾などへのアクセス性の向上など産業活動を支援する物流ネットワークの構築
- ・ 富山駅周辺整備の推進
- ・ 地域拠点間を連絡する道路網の構築
- ・ 広域交通ネットワークの確立
- ・ 交通渋滞等交通障害箇所の解消
- ・ 物流や観光など各種産業を支える幹線道路網の確立
- ・ 安全安心な歩行者空間の創出等、生活道路の整備
- ・ 道路除雪の充実、通学路など歩道除雪の強化
- ・ 道路の適切な維持・管理と効率化の実現

１．人が輝き安心して暮らせるまち

高齢者・障害者への支援 公共施設等のバリアフリー化を進め、高齢者、障害者など誰にとっても使いやすく快適な生活環境の創出

２．すべてにやさしい安全なまち

災害に強いまちづくり 大規模災害時の救急活動や緊急物資の輸送に活用する幹線道路の充実

雪に強いまちづくり 道路除雪の充実、通学路などの歩道の除雪により、冬期間における市民の経済活動の安定

交通安全対策の充実 踏切対策、交通安全施設や自転車道などの整備による、安心して歩ける道路環境の創出

環境負荷低減 交通渋滞の緩和による、不要なCO2の発生抑制

３．都市と自然が調和した潤いが実感できるまち

賑わいと交流の都市空間の整備・充実 総合的なまちづくりによる、都市の賑わいや魅力の再構築

地域の個性と特性を生かしたまちづくり 歴史、文化などの地域資源を生かした魅力ある地域づくり

ふるさと景観の保全・形成 自然風景や地域の特色ある風景に配慮した美しいまち並み景観の創出

ゆとりが感じられる都市生活基盤の整備 機能的な市街地の形成と良好な居住環境を実現

歩いて暮らせるまちづくり 駅や路面電車・バスの主要な停留所を拠点とした、歩いて暮らせるまちの創出

まちなか居住 公共交通機関の充実、広場や歩行空間の充実、景観への配慮などによる、まちなかの定住人口を増やし、賑わい創出

拠点を結ぶ交通体系の再構築 公共交通の充実とともに、交通拠点となる主要な駅などへのアクセス性の向上を図るなど、誰もが多様なライフスタイルを享受できる交通体系の確立

地域を結び生活を支える道路網の整備 地域を結ぶ幹線道路の整備による地域住民の生活の利便性の確保、交通渋滞の解消を図るとともに、歩行者や自転車にも配慮した安全で快適な道路網の確保

４．個性と創造性に満ちた活力あふれるまち

観光資源のネットワーク化 主要観光地などを結ぶアクセス道路の整備により、既存観光資源をより効果的に活用

発展と交流を支える広域交通ネットワークの整備・充実 北陸新幹線の整備や空港、港湾、高速道路の機能強化と、地域高規格道路を

はじめとした国道、県道などの広域的幹線道路の整備を促進し、国内外との交流を活性化させる

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

富山県 富山市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・発展と交流を支える広域交通ネットワークの充実・地域活力の向上	国道8号豊田新屋立体(地域高規格道路富山外郭環状道路) 国道41号富山高山連絡道路(地域高規格道路富山高山連絡道路) 国道415号や国道472号など県内の重要な幹線道路の整備促進 JR北陸本線連続立体交差事業及び富山駅周辺土地区画整理事業の促進 都市計画道路や生活道路の整備促進 橋梁など既存の道路ストックの延命化事業	・富山駅(北陸新幹線駅)や富山港と連結することから、広域交通ネットワークの確立による産業と交流活動が向上 ・立体化により、交通渋滞の解消とそれに伴う、交通事故削減、騒音の減少など沿線的生活環境の改善 ・岐阜県など中京圏との広域交通ネットワークによる産業や交流の活性化 ・大規模災害時の救急活動や緊急物資の輸送に活用できる幹線道路 ・国道415号は、富山港や富山新港などと連絡、また、国道472号は、八尾中核工業団地と連絡するなど産業活動の活性化に寄与 ・北陸新幹線の整備と併せて、都市機能の更新の実現 ・市民の安全安心の実現 ・長大橋に限らず、高齢化した中小の橋梁に対する適切なメンテナンスにより、安全・安心な通行の確保とコストの縮減、予算の平準化 ・冬期間における市民の経済活動の安定	○その他 渋滞解消による温室効果ガス(CO₂)の削減
・安全に暮らせる社会の実現			いずれも整備中であるが、早期に完成させ、投資効果を発現させることが重要 事業中であるが、北陸新幹線開業に合わせて、確実に事業を進めることが不可欠
・雪に強いまちづくり	持続可能な除雪体制の堅持(除雪オペレーターの確保) (市民との協働による除雪体制の確立)		